花を持参して拾をやしなひ
ものを供ぜん祖翁の像前
ゆゑに特をいとなむ孫ふたと
年ごとに人ごとに絶ひ
ゝゝとも尽さとて其の堂
孔おもきをおもふもとより
疎ぜるに成て年毎
孔拾をなすべく成て年

けるに なるべき人を 夢のうちと
く見るべきあるべき 夢のうちと
見るべき席にて 夢を思ひ
うなる 夢もまた 吉を
ひきて 供 矩 矩 さうも

寛政 こ 戊 ゝ

朝のうに 紫菜 まる 羅 人
けりそうふ 皆 極 人 閑 又
富ハ世のうちふものといやて 鉄 翁
白 酩 ふく ともるさ 南 采
菜 坂 ク ク き 山を 卯 色 有 車 蓋
桂 柱 み 亦 の 亦 亀 渕
許 も ふく 月 三 又 ようゝ 桃 睦

かしこく　たまう　土産の　書　　赤菊

鎌倉の　宴を　思ひ　出づる　哉　　白池

人々　ゆうゆう　琵琶を　むす　　魯長

右百韻　下略

世の小角　きて　ものの　梅　　瓜坊

まふ　夜　ゆうゆう　まの　山　　駝山

鶯姫の　鳥　ひとに　まる　ひに　　〃

文　衣　縫　みて　　坊

輦の　女童　　〃

　　ものも　　五　人　　山

　　なり　ハ　の　長　　〃

　　月を　　坊

　　蛸　　〃

　　なる　　山

　　脇　減　　〃

　　祈る　　坊

ちるを惜む人の心もつれなき　山

世捨の閑をいとふまの夜　坊

ちらぬくと花をはつかさけ等　山

春の小鳥　夜の鶴　峯

春ごとにさくらの枝をふ　不朽

見ばやと口そこなくまの梅哉　渭川

花まてはまの比の青女房　庫白

咲ぬきの口をはこ梅哉　凡二

坊の花や天狗の酒もの　曾陸

夕月や花の姿や一油盃　蓮車

酒の陣の是にまぎれ梅花　山暁

ちらんもくと花こそ哉　言道

眠り花のかすくをるの花　長廣

天地や雨もかすりぬ　花の奏　墨水

ゆらゆらるるを見うしろ　花の主　思情

ゆるれや　川もさくらの宮山　魯貢

山桜ゆるる春　ゆくて山　得孫

八重桜　かくちるもみえぬ　菫河

窓ゆ花ゆはゆるを　ちの間　珠鳴

、

ゆる花ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる　ゆる菊

訪ふうきくの岸日や花もて　土卯

花ちるやきんと仏宮孔拝僧ゆ　潮路

花ちるやきみふを爰ゆ二日酔　孤秀

濁り水ゆるゆる中花花　長南

奥ゆき袂ゆるゆる花の中　古塘

花ゆるて家ふゆるゆるの足ゆ　梅斜

三度来りゆるゆる桜の花ゆ　月峰

、

ゆゆ山やゆゆのかりゆを散桜　南呆

ちる花ハ人の名をかり山　杜桂

ゑまれや谷間の白き菫の花　一二三

詩ハ松ハ桜ヤ梅ヤ皇　私書

先妻死後みさむるやちる桜　百鳥

はらはらもまぬ山路の桜哉　車草

おもしろと花もちらす雨の花　青芽

嵯峨の森て月をとはる桜哉　山尾

三代の花をゆうき出る哉　桃柳

花や咲石碑を建てゐる人　觀水

花見人　おさまるのいきき哉　桃睡

花の主ハ戸とハ閉ぢにおもひけり　一峯

望の人ゑまれる芽や山桜　白池

、

ちるを山里の花もを　都雀

笑ひて苦もなく散る花の時　志諺

、

花ゆゑ山をこゑ出ス　紫曉

宗匠の花の門を開き侍

倭泉

、

花七日ばかり八月の秋なる哉　定雅

頃は咲花は日数加減哉　在貫

咲ちりも色とりやすき花の事　山之

咲ちりは多くとも花の蕾　楚梁

、

芭蕉葉に埃をまきて

ちりし花の色に冥加哉　嵐月

咲ちりに世をかくして逢坂

実桜ふるさとの花哉　爰鳥

其成

、

まれ〳〵に花やはつ秋桜星　眉山

世界花はまつ花の移り哉　車蓋

、

糸桜数さくら侍る山城

まちつる花の後の秋道哉　真爰

花の色は爰もしらぬ秋哉　下方

爰子

花の山月ゝ花の口ゝ花　衣翻

、

ゆふさゝをゆゝふ花女や花の影　黄口

はの花秀のゝゝふ午時花　梅英

二日降し花て二日花畜状　芦鳥

ちる桜まとこれ乳ゝ　玉慶

ゆきに花ゝてゝふ　西東　鬼薊

ちる花のほゝを杜の日業雅　魯長

、

山陰や枝の吹ゝ花のもと　百哺

桜ちる花ゝ花ゝ眠ゝ　宿深

冥時や花ゝてゝゝ人ゝ　寛等

うゝうゝゝゝゆき花の市室哉　素川

、

月の陽ゝ月ゝ桜ゝ　杉風

雅性女ゝてゝ花ゝ後哉　磯水

みゝ花やゝゝみゝを出ゝ名ゝ　柏葉

花の中に海ゝ人の陽ゝ　巴喬

分入て花みあらしや黄昏山　梁園

、

うの中　桜うを分をる子　丹波
海うれ　みとこに　うう　桜　いうた
まあ　ぶう　花の中　ぶう　桔梗　其伝
くうう　ゆう　ゆう　ぶう　桜　文進
うさ節や　名きし上　ぶう　桜　乙路
花咲て　人の　れ　ぬ　里も　思月
ゆう　の里　とる　う　峯の花　静為

花咲て女房のうみ　ぶう　ぶう
青くても　赤くても　花の　四　泗し

、

花もの　ぶう　も　往事の　ぶう　大津　未角
ぶう　年　ぶう　ぶう　ぶう　鐘の　洛　巨洲
ぶう　に　ぶう　面　ぶう　うう　ぶう　五来
出　ぶう　の人　ぶう　ぶう　や　花の　厨　井子
ぶう　ぶう　と　ぶう　独　ぶう　山　ぶう　楚南

新玄の田井に花咲て繁茂
ゝれハ此の秋百歳の蓮の花　玄兎
君德のゝ為ゝ諸佐ゝ為ゝ
秋桜の見時を待ゝ萬年　近江　一萍
潮花
花ゝ咲く蓮の下に咲きむゝ　蜃列
みをせくゝ月秋のゝ可ゝ　可石
なゝ見ゝ咲ゝ月ゝ見ゝ　青枫
陸ゝ花のゝゝゝ鳥ゝ夢　江舟

ゝゝ花ゝ井戸ゝ蓮ゝ四奥ゝ地　鉄翁
奥ゝゝて蓮ゝ株ゝ月ゝ花のもと　亀岡
桜ゝも月ゝ並ひ也如意宝珠　青牛
いき甲斐の向つて桜ゝ孫株ゝ　柏由
株くハゝんゝゝまゝゝ和桜　如毛
蓮ゝゝ花ゝ引ゝゝ新毎人　錦月
四ゝゝ桜ゝを色ゝ秋ゝ夏　湖亭
花ゝ蓮ゝ倍もなきゝゝゝ　其交

我梅や孤山を嗅ぐ月の詩　梨風

風流の曲もあるべし梅一枝　酔月

、

御只障る一言もなく佐久良哉　子鶏

廣沢や花と山との間うつる　玉き

門田や人ゝ稲うる花の塵　吟呂

詩仙の花の住ゐ自ら素　李明

我の花梅老の袖に孫古　花楊

梅もふき味噌もうこまゝ花の中　周路

ゝと花の中より乗りかへて　暁宇

、

ひまぶく人仙者を花くまし　子器

花の日や坊のゝ指ー小紅ー　子雄

雪の花面影の花の美哉　二浪

物のまや梅うもとに水をふまし　一之

、

我梅や子童もゝ才の果報　瑞雀

黄門て乳香る梅ゝ花之哉　専兒

花供養ゑれまハ月もよハ哉、　圓丈

、

無ゝ花ゝ杯ゝ折ゝ来ゝ一ゝ瓢ゝ　一カ

折ゝ之ゝ枝ゝに形ゝ来ゝ斬ゝ　一如

花後ゝ芝ゝに伏ゝ下ゝ　岷雲

小菜花の琴ゝ弾ゝ　思竹

備山ゝ散ゝ来ゝ花ゝ帳ゝ　五瓢

、

三月十二日芭蕉堂にて
年ゝ無ゝ行ゝ春ゝ　ゝ

拜ゝ堂ゝ数ゝ入ゝ花供養　勢刈　清秋

ゝ花ゝ花ゝの主ゝ　風洛

、

蛤の蓋ハ吹きくゝ　嶋水

ゝ行ゝ春ゝ　霞打

指折の日ゝ来ゝ　蕨道

年毎に花ゝ紅ゝ花の宮ゝ　寄峰

花咲て珠の簾ゝ見ゝ　甘谷

宗ゝ会ゝ来ゝ多ゝ　珉山

花をつみ　みなもとの行平　支朗
折りて女房も　持て山住之言　会曲

、

天下る乙女もいかで花の色　鳥路
ふるさとの山もとみ花ぶき　杜影
羽衣を　桜の下の　花之姿　吾支
歌　桜の下遊の　行末　銀伝

、

桜花王一姓の　ゆもあり　若品　巨川

曙や花の陰くらべ　東鳥
酒二石ふりて花ちる小あらし　陶河
山ぶりて　桜ゆもとみ　舞下之世　白馬
獣の栖をうゆる　住久言葉　柳支
花のもと　立て　森すり　鳥之　希由
琵琶の音も　まくお　陶室の　花華　其堂
管吹一　大角　冨　花　みも　春　呑空
降しハゆきて　小袖　之　母　花の面　吐雲
ちりとハ　許かまり　て　ちり　桜　鬼雀

、

百雄ひ竹みえて春の花　悦溪

山さと平吉解ゝ花の道ゝ　之丸

花の流掬てハ手みゝ　五鼎

人ゝまて花之了墓や小長ロ　波静

、

酔さめや花ゝ花て嵯峨泊り　奥春

山寺や砌ゝ　ゝき八重佐久　一川

ゝ鳥ゝ陸ゝ鳥ゝき花之哉　東考

花枝て空土乾ゝ日和ゝ　栅子

ゝ雲ゝ里ゝ奥ハ春ゝ花　烏田

ゝれハ見ゝ　ゝ花の下　一巴

新屋時中ゝ花ゝ　李牧

ゝゝ中ゝ　ゝ一重桜哉　馬佛

ゝゝ春ゝ花の雪吹哉　兎文

目ゝき茅皆時やもと人　馬来

、

花ゝて暫ゝ京ゝ町　能登　珎卜

花咲て醒ぬ小雨栖鳥哉　素玉

梨やきのふ花を美濃　都山

花の色や蓮も花さきの馬角の外　文遊

無の子をとろくもなり山桜　怡水

まゝ子をしてまゝを花見哉　文玲

一日を散をとまりさくら哉　玻井

雲日うゝハ林角の茶屋み花見　馬涼

花ちゝ戸さしてゆの眺うふ　文朝

待ゝて花見よりうら哉　加由

ゆゝ山を忘てとゝうら桜　珊丘

盞を除の名残やゆゝ伝えし　嵐峰

花ちゝやゆゝまし桜のみのゝ　李友

多ゝ日や散るの花の物語　麦秀

、

うゝ仮やのくれて出る桜　暮臘

くゝ日や花の光見まゝ　岸芷

歯を抜ゝ男まゝうゝ桜　梅眠

[illegible]花盛人[illegible]

[illegible]

花咲[illegible]山[illegible]

越中　杜市

緑水

壁斗

、

[illegible]

花の中に[illegible]

[illegible]

花ら我ら[illegible]

大坂　尺艾

画凉

爰友

江匠

、

花[illegible]山[illegible]

三尺の花ら[illegible]

酣ら花降ら[illegible]

和加　可翠

三楽

芦雪

、

花[illegible]

花咲や[illegible]

紀加　海牛

魯水

、

[illegible]

播加　君中

花咲ぬ石の窟を出ぬるつ　紫薑
芝衣咲も八重代のさくら哉　五水
見れ共も桜のこゝろ残　觀水
きゝ近の清き酔こゝろ花の主　百和
三月や雲を出れば花の人　寒鴻

、
、

桜咲ぬ散りぬるゆゑの桜　備中　南枝

花桜一本ばかりの桜　信聖　備後　伊笠
たゝ一ふさや花ゆゑ合ふ桜哉　李釣
第拾八里糸桜迄しみ桜　花毛
ちる桜之るやゆゑの日さし　馬杖
ふるゆゑ也峯も嵐も花雪吹　一鳥
ちる花や風ゆゑ枝て月を意る　午琴
咲ハ丁を散る桜ふ　瓦二
二三ふ春の雪ふる桜ふ　右汐
うゝ孔女や折ふゝ桜の花　古声

、

山桜さくとなかめて詠うそ　碧苔　東吹

なかなかに咲くは遠方の花の山　金竟

峰伏ゆく花をは　可友

ひかるまもなくさくは　九十

、

東や花を　師幸を生車　雲苔　祢尾

ほろほろや咲くと見て　石苔　鳳冲

ふるひかるにたちて　志山

ほのぼのや桜もまつ鶯の　庵鳴

黄かりて行つき花の山ぶき　如珪

見もまもらるるまで　吐阿

花なくはいのちに行つき谷の滝　嵐峯

出うり在平の名や桜時　東山

ほのぼのと春の夜ハいつる峰の花　雨山

花ぶきつ　かくおそうき世の夕花　見渙

陸ちまいはきて　足ぶり桜哉　里暁

叶日和　雨も出ぬる日を　みな桜　友景

ふるに和歌の日とや花曇　如蕙

、

市中やゑ出くつれう花の枝　阿品　蓼花

さくらやみくらに酔て花の宮　長品　花窓

市塵に多忠多つ山　湖水

山蜂や花はらくらく　白遊

新茶やゆふ〻音ふく花の散　比雪

行春ふく休む花ゑんのみる〻哉　麦子

ちくや旦を名殉ふる花の坂　女

夕ぐれに物おもひきさまつる　里芳

花ゆれや天上人みるるかな　楚柵

みちたれ花ふる里に野鳥正　里梅

花ちに閑をとて詠る哉　銚哉

ゆふうふる和歌花のくれ山　南江

此を種〻もの行春の鶯哉　呉溪

埋まて花ゑ蓋ゑ仁哉　董里

、

花ちといさ〻ゆふ春人無所欲　豊前　謂水

[illegible]一勢花之世氣哉　本腸
人歩一嵐花のの宮　寺　隻夕
山の辺や公泥障一〜花の雲　南明

、

花の後世田の夜の宮の庭の宮の庭　筑前　箏里
汐干とて姉妹の[illegible]花の雲　歸来
許の建一蓑を花の花ゝ[illegible]　墻山
雪の桜こなくや鄙くも雪　藍江
[illegible]の花の校　君花

、

峯の花[illegible]の梅哉　肥後　柿青
竹の書奥[illegible]里の花之哉　箕溪
[illegible]花之[illegible]　蔦路
なれも桜や奥芽哉　清壷
花の枝[illegible]烏帽子哉　化仙
古陵や都[illegible]花の中　文曉

[illegible]の花もてとはせあうもと　豊後　磨生

けけや花の上ゆく人こゝろ　肥前　庫文

いつの花か桜にてきもみうるの時　文塘

[illegible]世の[illegible]
[illegible]中　[illegible]の唱[illegible]

花山遊に行て　遠加　白輪

答ハまと小雪ちる桜　魯雀

ゆうゝ[illegible]絶み[illegible]花の山　知白

下臥や桜の中ゝみ花のゆえ　約我

、

かゝ一日や一里ハ皆遠[illegible]　尾陽　[illegible]城

[illegible]桜とちうえ[illegible]　濃加　佳乙

、

山桜ゝ[illegible]おすハて[illegible]入[illegible]　甲加　可都里

[illegible]ゝ[illegible]　作良

ゆ[illegible]や花ニ誘[illegible]　美敬

[illegible]や桜[illegible]に松くま[illegible]　樗冠

ゆ[illegible]桜[illegible]の山[illegible]　漢南

、

[illegible]桜[illegible]　上加　朔宇

桜花や抜き打ちに捨て　上州　専車

さくら花世話しに仏益の御達　信濃　雲峯

人参に御さくらの寸桜哉　武州　鳳仏

石加減さくらのぬくもや山桜　仙風

さくらの日ハ春のふるさと　下州　楚流

散桜世峯ハ師生の天満川　赤李

花ちれハ子を忘れ水戸　水戸　石窓

日暮の花ハ浦さくら山さくら　羽州　露橋

笑ひさくらの花の志をり哉　奥州　吏仙

散る花日和法華上戸哉　吾舟

、

さくら花を乗て出る雲の　青義

浮の花雲母ひきうゝ哉　五齢

見てさくハ桜も春ゝ法師　賢山改　駝山

ちるさくら

桜さくと出る御室うゝ哉　宇文

花を立てゝ見おくれ居
きたりし松と高山桜
青葉みて雪花供養
の後ゆゝしてみ墓の
白とたく見ゆかに

ほとゝきす詩のみ書写日記　新凡
花ハふり行く和尚哉　写文
乱くに小茶ゆとく後園宵　朝宇
千和尚をうゑ負下日暮也　古墳

猫ハ小ー猫ハ衣を着る夕月に　伊笠
招きまし秋の末茶飯に小野くり　渭川
秋の末茶飯に小野くり　其成
ふりとうつるを拾ふ　一峯
鈴子に仰の雲みくれなる　素爰
大木をうゑ白雲みゆ　松風
雅ゝおちをなと乱もゝん　平谷
君待日数指ゝ数ふ　珠鳴
月てさく白ゝ雲ゝ顔也

言道　蓮車　不朽　長廣　得終　在貫　山曉　陀佛　楚南

志諺　凡二　眉山　一三三　梁園　鬼薊　曾陸　蓮河　山尾

うゝてゝ　ゝれハ　ゝた　ゝ　ゝ　　觀水

たと　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　　私壽

　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　　土印

甫甫　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　　雲帶

　　箕踞　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　　麦子

追加

かゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　　近江　陀佛

　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　　越中　不石

　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　　沙文

　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　　千友

　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　　イセ　常川

寛政二庚戌年春三月

京三條通御幸町西

萬明書林　菊舍太兵衛

三条通御幸町西

菊舍太兵衛